

科目名	相談援助		担当教員	佐藤隆司		
			担当形態	単独		
テキスト	必要に応じて資料を配布する。	単位数 授業形態	1単位	演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談援助の意義・必要性を理解し説明できる。 ・相談援助のプロセスを理解し説明できる。 ・基礎的な相談援助のための基本的技術を習得できる。 <p>■授業の概要</p> <p>社会福祉現場の相談（援助）は日常経験する相談とは全く異なる（例えば、明確な困り感がなく、しかし、怠惰な生活を繰り返したり、躰と正当化して子どもを叩く・殴ったりするなどの）様相がある。複雑困難事例などの場合、相談者（クライアント）に「如何に問題意識を抱かせるか？」は、地道に継続的に相談援助する忍耐と技術と労力を要する。本授業は社会福祉現場の相談援助の展開過程、原則、倫理・価値観などの基本事項とともに、個別援助技術（ケースワーク）、集団援助技術（グループワーク）、コミュニティワークの相談援助技術、問題解決のための情報収集（調査）、アセスメントの視点などを学習、修得する。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 相談援助の基本① 専門性と相談援助</p> <p>第2回 相談援助の基本② ソーシャルワークの概要</p> <p>第3回 保育士の相談援助とソーシャルワーク① 相談援助の展開過程、自己覚知と他者理解</p> <p>第4回 保育士の相談援助とソーシャルワーク② ケースワークの歴史</p> <p>第5回 ケースワークの原則①</p> <p>第6回 ケースワークの原則②</p> <p>第7回 面接（相談）力向上のための留意事項① コミュニケーションの双方向性</p> <p>第8回 面接（相談）力向上のための留意事項② 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション、ペーシング、距離、位置</p> <p>第9回 面接（相談）力向上のための留意事項③ オープンクエスチョンとクローズドクエスチョン</p> <p>第10回 面接（相談）力向上のための留意事項④ 面接（相談）の基本的構成</p> <p>第11回 家族アセスメント①</p> <p>第12回 家族アセスメント②</p> <p>第13回 実際の面接（相談）① 解決志向アプローチ</p> <p>第14回 実際の面接（相談）② 解決志向アプローチ</p> <p>第15回 総括</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料は必ず予習・復習して次の授業に繋げる。 ・積極的に疑問、不明な事項は発言する。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参加、意欲・態度、発言内容、取り組み — 20% ・課題提出 — 20% ・期末試験 — 60% 						
卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修 社会福祉主事任用資格選択必修	特記事項	私語・途中退室・電子機器使用などは使用禁止。			
			幼			
		保	保育の本質・目的に関する科目			